

ぽ・こ・あ・ぽ・こ



・ぽこあぽこ通信・2018年10月号 No.4

『従順性の発達とは？』

子どもに対して、「どうして、言うことを聞けないの？」と言ってしまふことは、ありませんか？

そんな時にモンテッソーリ教育の「子どもの見方や考え方」を知ると、スッと楽になるかもしれません。

今回は「従順性(=自らルールを守りたい、従いたいという気持ち)の発達」についてお話したいと思います。

「従順性の発達」には、3段階あり。最初は大抵1~2歳位までの時期、次は3~4歳位の時期、

最後に5歳以上の時期にあります。従順性は、突然現れるものではなく、徐々に育っていくものです。

では、従順性の3段階を、段階ごとに詳しくご紹介します。

	第1段階 (1歳~2歳頃)	第2段階 (3歳~4歳頃)	第3段階 (5歳頃~)
	本能が理性に優っている時期 [本能 > 理性]	本能と理性の力が ちょうど同じ程度に働く時期 [本能 = 理性]	本能よりも 理性の方が強くなっていく時期 [本能 < 理性]
特 徴	まだまだ良い悪いの区別がつかません。例えば「いただきます」をしてから食べるのではなく、「目の前に出されたらすぐ食べ始めてしまう」など、大変衝動的なのが、1~2歳の初期頃の特徴です。 しかし、周りの大人や子どもを見て、少しずつ「皆が席についていただきます」と言ってから食べる」というルールを学んでいき、2歳の終わりから3歳になってく頃には、わかるようになってきます。 そういったことが「従順性が育った」ということになります。	3歳~4歳頃は、本能と理性がちょうど同じ程度に働く時期で、つまり、ルールがわかって行動できる時もありますが、わからない時もあります。 大人の言うことを、ちゃんと聞けたかと思うと、全く聞けなかったりして、理性と衝動の力がちょうどイコールになっているような感じです。	はっきりと「ルール」がわかり、ダメなものはダメで「これはルールがあってできないから、しちゃダメだ」という事が、自分でわかるようになるのです。 この時期の子どもたちが、先生に「〇〇ちゃんが牛乳を捨てたよ!」「〇〇ちゃんが片づけてないよ!」などと言いつけに來たりするようになりますが、これも「守るべきルールをしっかり理解できている」という事が見えるサインです。
大 人 の 関 わ り 方	まだまだ本能の方が強いので、「ダメよ」と言っても、どっちみちやってしまうという事を、大人側が理解している!!ということが重要です。 しかし、「どうせやるなら、言っても言わなくても、一緒じゃない?」と放任せず、良い悪いをハッキリ伝えていく事も大切です。例えば、机の上に乗ったりする子がいたら、「机は登っていいものじゃないよ」とハッキリ伝えていきましょう。 ただ、その時には、一時的に降りたとしても、またすぐ登る場合もあります。しかし、その時にカッとなって「何で登るの!? さっきあれほど言ったじゃない!」などと言っても、残念ながら登りたければ、また登るでしょう。 これは「月経神経回路がそこまで育ってない」という事なのです。ですから、それほどイライラせずに、ただ淡々とルールを伝えましょう。 そして、まだできない時が何度もあるという事を、大人がわかってあげている事が重要です。そうする事によって、あまり感情的にならなくて済むかもしれません。	この段階の大人の態度も結構難しいでしょう。色々な事ができるようになって、守れることが増えてくがゆえに、守らない時に、大人が怒りがちになります。「何でできるのにやらないの!」など言ってしまうたりする事があります。 できる時は、石確かに増えますが、まだまだできない時もあるわけです。例えば食事の際、ほとんどの場合は、「いただきます」と言って皆が揃ってから食べられますが、ある時、待たずについ手が出てしまったりします。そのように、まだまだ完璧には発達していない事です。それもわかってないと、大人がイライラしてしまいます。お母さん達は、それが小惑み所となる時期でしょう。3~4歳の時期は、ちょうどイヤイヤ期は消えてきていると思いますが、今度は嘘もつけるようになってくる頃なので、人の物を取ってしまったり、それを見て「取ったでしょ? 何か持っていない?」と聞くと、「持っていない」と言ったりします。嘘をつけるのはある意味、認知発達が発達したという事なのです。しかし、ここでもやはり大人側は、「できる時もあるけど、まだまだできない時もある段階」という事を理解しておく、適切な対応ができるのではないのでしょうか。十分な従順性が育つには、もう少し時間が必要だということです。ただ、もちろんこの時期も「感情的にならず、やって良い事と悪い事を伝えていく」ことが大切です。	5歳になつたら、ルールはほぼ皆破らなくなり、とても従順にルールを守れるようになっていきます。しかし、そこでルールを破る事があるとすれば、少し、逸脱(=本来のあるべき良い子の姿ではなく、精神的エネルギーと、肉体的エネルギーがアンバランスになっている状態)気味だと思つて、別の原因を探ってあげたりするなど、少し注意が必要かもしれません。 発達段階的には、もうルールをきちりと守れるのです。 あとは、「何故このルールがあるのか」というのを考えさせてあげる事も有効です。この段階の子は、ルールに納得すると「あ、そか!」と言った感じでさらに守れるようになります。「あなたがこれをしないと、イセの子に迷惑がかかるんだよ」のように、きちんと話すと、意外と理解できるのです。ただ単に、「〇〇くん、部屋走っちゃダメよ!」と言うよりは、「あ、ね、ここを〇〇くんが走るじゃない? そうしたら、ほら見て、△△ちゃん(赤ちゃん)が寝ているでしょ。うるさいと思うよ。」と言うと、「あ!!」って言って、静かに気を付けて歩いていくようになります。だから、「こんな理由があって、このルールがある」という部分をきちんと矢口らせてあげれば、「つい、悪気なくやっちゃう」って事もなくなるのではないのでしょうか。そして逆に、子どもの方から、「ここは、シーっよ!」とか言うこともありますよ(笑)



『従順』…それは、大人に従う子どもをつくるということではなく、内的な従順性という意味です。それは「外的な秩序」によってつくられます。

正しい従順性を身につけた子は、児童期・青年期になった時の道徳性にもリンクします。では「従順性を育てるためには…?」それはまたお話したいと思います。